

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:86.

人工股関節置換術を受けた患者の手術後の身体的・精神的要因がリハビリテーションの実践に及ぼす影響

伊藤 絵里子, 蛭子井 愛, 瀧野 あさ美, 渡部 佑季

## 人工股関節置換術を受けた患者の手術後の身体的・精神的要因が リハビリテーションの実践に及ぼす影響

旭川医科大学病院 8階西ナーステーション

伊藤絵里子、蛭子井愛、瀧野あさ美、渡部佑季

### 【目的】

人工股関節置換術(THA)後の身体的・精神的要因がリハビリテーションに及ぼす影響を明らかにする。

### 【方法】

A病院にてTHAを行い、手術後1～2週間目で歩行が自立となった患者に無記名式自記式の調査を実施。回収した調査用紙(7項目)を項目ごとに単純集計し、影響する要因について分析した。

### 【結果】

21名に実施し回収率、有効回答率100%。自己でリハビリをしている患者(a群)は17名、していない患者(b群)は4名。a群で、痛みあり7名、なし10名。脱臼の不安あり11名、なし6名。退院後目標あり15名、なし2名。b群で、痛みあり2名、なし2名。脱臼の不安あり3名、なし1名。退院後目標あり3名、なし1名。

### 【考察】

設定した項目でリハビリの実践の阻害要因、

あるいは促進要因と考えられるものはなかった。a群の半数は疼痛または、脱臼への不安を抱えていた。疼痛や脱臼の不安があってもリハビリを実践している患者は約8割であり、今回の対象者では手術後の疼痛や脱臼の不安は、自己でリハビリを実施する阻害要因には必ずしもならない。また、退院後の目標を持っている対象者は8割以上であり、リハビリへの意欲が高い患者が多い。患者の目標はどこにあるのか、早期から医療者と目標を共有し、患者の目標に沿って、リハビリを進めていくことが限られた入院期間の中で重要と考える。

### 【結論】

手術後の疼痛や脱臼の不安は、自己でリハビリを実施する阻害要因には必ずしもなっていない。退院後に目標や、やりたいことがある患者は自己でリハビリを実践する要因となっている。